

Case : 325

歩行車から椅子に移ろうとした際に、歩行車が移動し転倒しそうになる

場面の説明

脊髄小脳変性症の人が、ブレーキ機能のない歩行車からテーブルの椅子に移ろうとした際に、テーブルに伝う前に歩行車が動いてバランスを崩しそうになった。



| | |
|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 利用シーン |  移乗 |
| 主な利用場所 |  リビング・居間 |
| 介護保険の種目 |  歩行器 |
| 分類コード (CCTA95) | 120606 (歩行車) |
| 介護テクノロジー | — |
| 二次元バーコード |  |

解説

脊髄小脳変性症の人は、手足や動作のふらつき（失調症状）が徐々に進行するため、以前は安全にできていても徐々にできなくなることがあります。歩行車がテーブルに接近しにくい環境要因も誘引になっています。定期的なリハビリ専門職の生活動作の評価・助言を受けつつ、ブレーキ機能の付いた歩行車や安定したテーブルなどの環境調整の見直しが必要です。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

- 人：手足や動作のふらつき、病状の進行が影響した
- モノ：歩行車にブレーキがなく、テーブルに接近しにくい形状だった
- モノ：歩行車が接近しにくいテーブルの脚の構造だった
- 管理：定期的な病状評価と生活動作の確認が不十分だった

| | | |
|-----|-----|-----|
| 日付： | 所属： | 氏名： |
|-----|-----|-----|

Case : 325

歩行車から椅子に移ろうとした際に、歩行車が移動し転倒しそうになる

事例詳細



回答前に見ないこと

場面の説明

脊髄小脳変性症の人が、ブレーキ機能のない歩行車からテーブルの椅子に移ろうとした際に、テーブルに伝う前に歩行車が動いてバランスを崩しそうになった。



| どのような要因が考えられますか？ | どのような対策が必要でしょうか？ |
|------------------|------------------|
| 人（本人・介護者・関係者）の要因 | |
| モノ（福祉用具）の要因 | |
| 環境の要因 | |
| 管理の要因 | |

メモ